

馬に向かい木を揺る。見送りがあった。国一を飛ばして原駅で大橋、川口を迎える。これ

無理なので全員で一旦聖沢まで行き、1台をダムに回送する作戦を



た。それから「何々あるよ」

「ただし車まで行けば」というのが大いにハヤる。これにはいろいろ皆で大笑いした。僕は気持ちのよい小屋でリラククスし、大いに語り、飲み、食べた。酒は毛利差し入れのオールドだった。

16時、気象係の川口が天気図を取る。ハッキリとした冬型で明日も安定と判断する。空気が乾燥しているのでストーブの薪が良く燃える。裏の水が氷結するので汲んでおこうとすると佐野が「後藤さん絶対凍りませんよ。賭けてもいいです」といった。僕は「では、1万円賭けよう」という。僕は100%凍ると思った。オールドも終わったので寝る。

12月31日(晴)

へタイム 起床2:00 出発5:00 12632m峰 16:00 (泊)

頭がガンガンする。昨夜飲み過ぎたらしい。角も半分なかった。あきれたものだ。川口のアイゼンの調子が悪く遅れ磐田に先を越される。足回りは雪が多いので二重靴の杉澤を除き完全装備とする。外に出るとヒヤッとして気持ち悪い。例の水道は完全に凍っていた。出発して5分程で川口のアイゼン

が外れた。直して歩くとまた外れる。固定バンドが悪そうなので一本締めでやる。それでも外れる。アイゼンがオーバーシューズの寸法に合っていない。アイゼンなしで行く。30分はロスをした。伐採跡の急斜面を越えて東尾根に出た。上河内岳の朝焼けが美しい所で8ミリを回す。尾根も傾斜を増しザックも肩にくい込み苦しい登行になる。赤石岳が見える肩までこないと楽にならない。

杉澤と川口が先行して見えなくなる。僕はとても腹が減ったのでミカンと大橋の持ってきた羊かんを食べる。毛利も余程なのか珍しく甘い物を食べている。しばらく行くと再び伐採跡地に出る。ここが肩で赤石沢の向こうの赤石岳がすばらしかった。樹木がなく風当たりが強く寒かった。少し行くと杉澤、川口が待っていた。風のない所まで行き昼食にする。今朝焼いたモチを食べる。少し固いが仲々うまかった。杉澤が大橋にミカンを出す様に言う。僕はそれを聞いて「実は先程あまり腹が減ったので皆で食べた」と言う。彼は少し怒り「腹が減ったからといってそれ位我慢出来ないの」と言った。我慢強い彼には僕達のし

た事が大いに気に触った様だ。

そこからは杉澤、大橋、佐野が先行する。僕と毛利、川口はゆっくり行く。天候は相変らず安定していた。陽当たりの良い所で大休止。毛利は先程から腹の具合が悪いと訴えている。モチの消化が悪いのか。僕は僕で何となくダルクて力が出ず意欲がなかった。何か今回はおかしい。緊張感も無いし新鮮さも感じなかった。一体どうしたのか。最近どうも山に億劫になっている。例えば城山で人工登攀してもちっとも面白くない。今子供も生まれたばかりだし、精神的に余裕もないこともある。いずれにしてもスランプだった。

30分程で出発。急登を行くと見覚えのある2632m峰だった。全員で雪をならしてテント設営。僕は持参したアマチュア無線機でオンエア、CQを出す。井川の入谷さんが出た。ひと通り今日の行動を報告する。こうして下界との連絡体制は常に確保しておく。何しろ遭難した場合少しの救助の時間差で助かったり、亡くなったりすることが多い。入谷さんも山はかなり登っている人のようだった。夕方今度はCBで今日入山した聖沢隊を呼んでみると、あまり

明瞭でないが出た。彼等も出合所小屋に到着した様だ。それにしても時間が遅いなどという合う(実は林道を歩いてきた)。

夕食は昨夜に続き牛肉パーティー。全員すごい食欲だ。残りの角もたちまち終わった。何か無いかと捜したら、川口が聖沢隊女子の為に持参した赤ワインがあった。毛利が「俺が管理する」といって取り上げる。飲むが、「ワインではいくら飲んでも酔いやしない」などと文句をいっていた。夜、再びCBで交信すると山口が出た。電波は強く明瞭だった。全員元気で林道を歩いてきたとのこと。明日の行動、装備、明朝3時交信を確認する。僕は太陽の日なのでこの1年を振り返り語り合う。紅白では、山口百恵と沢田研二が歌っていた。16時の天気図では日本海に小さな低気圧があり、ゆっくり東に向かっていった。明日は少し雲が出るかもしれない。

1月1日(曇のち晴)

へタイム 起床2:00 出発5:00 1聖岳 : 1聖平小屋 (泊) (タイム不明)

川口に「2時ですよ」といわれて飛び起きる。隣に寝ていた杉澤